

なぜ、青森県ではがん死亡率が高いのか？
地域がん登録を本来の役割として活かしていきたい

私が青森県について話す時、あるいは文章を書く時、必ずといっていいほど「青森県のがん年齢構成死亡率は男女とも全国で最も高い」から始めます。国立がん研究センターがん登録・統計によると、男性では平成16年から、女性では平成24年から全国最高(最悪)の状態が続いています。

では、なぜ、青森県はこのような状態になってしまったのでしょうか？
新聞やテレビなどでの報道では、ほとんど必ず死亡率の紹介の後に「喫煙率が高い」「食塩摂取量が多い」等が理由として列挙されます。また、「医療レベルが低いのでは?」という意見が付け加えられることもあります。しかし、これらは推測の域を出ません。「なぜ、青森県ではがん死亡率が高いのか」を考える際には、まず地域がん登録データを見る必要があります。

地域がん登録は30弱の登録項目しかありませんが、精度を向上させるとその地域のがん患者さんに何が起きているのかが明らかになってきます。大きな異常しか見つけることができませんが、経時的にモニタリングすることでそれを凌駕する威力を発揮するのは航空機の管制レーダーに似ています。

青森県がん登録は平成元年に登録作業を開始しました。それは、青森県のがん年齢調整死亡率が全国で最も高くなるよりずっと前です。したがって、このレーダーが正しく機能していれば、死亡率順位が悪化する前に何らかの異常を察知できたのかもしれませんが、効果的ながん対策を立てることで、現在のような状態を避けることができたのかもしれませんが、現実にはDCN割合=DCO割合=40%以上というレーダーが故障した期間が長く、今でも「がん死亡率がなぜ高いのか」を探索し続けています。

そうは言いながらも、疾病の流行をキャッチし、原因を把握し、対策を立て、その効果をモニタリングするというのは疫学の常道であり、その現場に立ち会うことができるのは大変嬉しく、やりがいのある仕事です。また、地域がん登録が本来の役割として活躍できることも、実務の一端を担う者として誇らしく思います。